



光本 一也 議員

Q 県無形民俗文化財に指定された筆産業の振興策と本町のまちづくりは

A 町 長

熊野筆事業協同組合が取り組む筆製作技術の保存と継承、筆の需要拡大を支援する。

【Q 1】

原材料や物流コストの高騰、円安、トランプ関税など、筆産業の厳しい現場の声が町には届いているか。

【A 1】

中国筆の増産や小動物の取引制限による原木不足など深刻な状況と聞いている。

【Q 2】

筆づくり従事者の数と平均年齢は。

【A 2】

令和4年度の従事者数は約2000人。筆づくりをされている方の平均年齢は不明だが、伝統工芸士の平均年齢は74.8歳。

【Q 3】

約30年前から因州和紙（鳥取市）、雄勝硯（石巻市）、鈴鹿墨（鈴鹿市）、熊野筆の4産地で持ち回り開催している「文房四宝まつり」

おがつずり

を全国の産地に呼び掛けて全国規模のイベントに発展させていく考えはないか。

【A 3】

鈴鹿市から今後は不参加との意向を伺っているが、まずはこれまで連携してきた3市1町で意向を確認したい。文房四宝まつりの継続と発展に向けてどう連携するか、産地間で検討したい。

【Q 4】

国の無形民俗文化財を目指す考えはないか。

【A 4】

県指定には、筆組合や伝統工芸士会、大学教授、民俗文化の専門家など多くの方に関わっていただき4年以上を要した。まずは、筆製作技術の保存と継承、産業の活性化に向けた支援に取り組みたい。

Q 家庭用防犯カメラ・録画機能付きインターホン設置補助金、追加予算の確保を求める

A 町 長

9月議会での補正予算で対応したい。

【Q 1】

地震によるブロック塀等の倒壊被害から町民の生命・身体等の保護と避難に必要な経路確保を目的に、道路に面する危険ブロック塀等の除却又は建替え工事に要する費用の一部を補助する「ブロック塀等安全確保事業」の実績が上がっていないが、要因は。

【A 1】

ブロック塀の除却と除却後の軽量フェンス等の新設で最大30万円の補助金があるが、全体工事費（80～100万円）から補助金を差し引いても自己負担額が50万円程度となることから工事を差し控える方もおられ実績が上がっていない。

【Q 2】

自宅のブロック塀が危険な状態であると認識していない方もいる。

倒壊事故が起こってからでは遅すぎる。早

急に危険ブロック塀の所有者に直接的な告知、周知に動いてほしい。

【A 2】

直接的な周知方法について、他市町の成功事例等を調査研究する。

【Q 3】

家庭用防犯カメラ・録画機能付きインターホン設置補助金。事業開始初日に123件を受け付け、予算の上限に達したということだが、申請の状況と申請を断った件数は。

【A 3】

役場エントランスホールに設けた臨時受付で対応したが、開庁前から行列ができる状況で途中で帰られた方もいた。午後申請が途切れることはなかったが、初日はすべて受け付け翌日からの受け付けを中止した。

Q 町内の農地耕作放棄地の現状は

A 建設農林部長

農業者の高齢化や減少なども相まって耕作面積を維持していくのも難しい状況である。

【Q 1】

農地に対する自然災害時の支援制度は。

【A 1】

降雨量が24時間で最大80mm以上、又は、時間20mm以上で、工事費が40万円以上などの条件はあるが、災害復旧に要した工事費用の半分を補助される制度がある。

【Q 2】

宅地化に関しての審査は適正か。

【A 2】

農業委員会において、市街化調整区域では被害防除対策の措置を指導しているが、市街化区域の農地は届出書の受理のみで審査は行っていない。

【Q 3】

かんがい田越し灌漑（田越しの水）の際には十分な

配慮が必要ではないか。排水設備の設置などを指導してほしい。

【A 3】

申請や相談があった場合には、これまで以上に周辺への影響に留意し、トラブルが生じないよう丁寧な助言をしていきたい。



※田越し灌漑（田越しの水）とは…

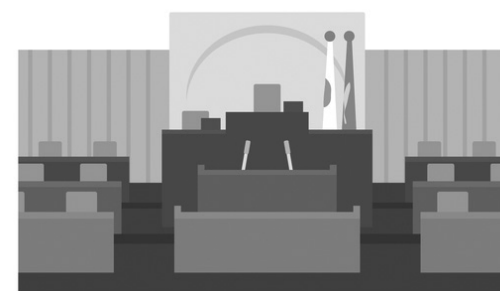
水路を設けずに田から田へと順次排水していく方法のこと。



豆知識

議会を傍聴してみませんか？

本町では3、6、9、12月の第一火曜日9：30から定例議会が開催されています。傍聴はどなたでもでき、予約もいりません（先着32名までとなっています）。熊野町のホームページから議会中継をリアルタイムで観覧することもできます。また、庁舎1階のエントランスホールにあるテレビで議会の中継を見ることもできます。町民の皆様から負託された議員が活動している姿を是非ご覧ください！



※議会を妨害する行為や他の人に迷惑をかける行為は禁止されています。